

# 日本版 EPQ (Eysenck Personality Questionnaire) 作成の試み

辻 平治郎・加納真美・新野邊深雪

## I. 目 的

周知のように, Eysenck, H. J. の人格理論では, 人格はP (精神病的傾向), E (外向性-内向性), およびN (情緒不安定性あるいは神経症的傾向) の3次元に分れる。これらの人格特性のうち, EとNは早くからモーズレー性格検査 (MPI) などによって測定が可能であり, 膨大な研究が行なわれている。しかし, Pの測定はこれにくらべると随分遅れて, PEN, EPQ などの尺度の開発を待たねばならなかった。このことは, P概念の体系化や測定が決して容易ではなかったということを示している。しかしその後は, これらの尺度を使った興味深い研究が次つぎに現れてきている (たとえば, Eysenck, H. J. & Eysenck, M. W. (1985) ; Claridge, G. (1987) などを参照)。

我が国では, Eysenck の作成した性格検査のうち, MPI が翻訳され標準化されているが, これはPの次元を含んでいない。このため, Pをも測定できる尺度の日本版の作成が求められていた。最近, 児童用については, Haya-shi, S. & Kurachi, S. (1988) が PEN を翻訳し, その標準化の作業を開始しているが, 成人用は, 私たちの知るかぎり, まだ手がつけられていない。そこで, 私たちは EPQ の日本版の作成を試みることにした。

## II. 方 法

P, E, N および L (虚偽尺度) の 4 尺度よりなる EPQ (Eysenck Personality Questionnaire) を、できるだけ正確に分りやすく翻訳し、仮の日本版とした。こうして作成した 90 項目の尺度を、京都市内の公立高校 1 年生の男子 141 名 (ただし有効解答は 136 名)、女子 164 名 (同 159 名)、計 305 名 (同 295 名) に、「はい—いいえ」の 2 件法で施行した。このデータを、Eysenck らにならって分析し、彼我のデータを比較検討するとともに、因子分析により因子的妥当性を見ることにした。

## III. 結果と考察

### 〔分析 1〕

まず、Eysenck, H. J. & Eysenck, S. B. G. (1975) にならって、P, E, N, L の 4 尺度の平均値 (M) と標準偏差 (SD) を算出してみた。Table 1 に明らかなように、これらの数値は全体的な傾向を見た時には、Eysenck らのそれとさほど大きな違いは見られなかった。しかし、彼らのマニュアルの 16～19 歳の平均値と 1 つ 1 つ比較してみると、日本の男子高校生はイギリスの同年代の男子より E が低く、N が高い。すなわち、より内向的であり、かつ、より神経症的・情動的である。一方、日本の女子高校生はイギリスの女子より P が高く、よりタフ (tough) である。また、イギリスのサンプルでは、P と E は男子の方が高く、N は女子の方が高い。このような傾向は、男子の方がよりタフでより外向的であり、女子の方がより情動的であるという性差観とも一致する。ところが、日本の高校生では P と N に性差が見られず、E は男子の方が低くなっている。すなわち、日本の男子高校生は女子と同程度に情動的であり、女子より内向的である。また、女子高校生は男子と同程度にタフである。いいかえれば、男子の女性化、女子の男性化ともいい

うる現象が見られる。もちろん、本研究のサンプルが日本の高校生の母集団を適切に代表しているかどうかは明らかではない。また、このような数値は翻訳の仕方いかんで変化するものである。したがって、厳密には日英の比較は不可能である。が、おおよその傾向はこのようなものと推測できよう。

次に、Cronbach の  $\alpha$  係数によって、これらの尺度がどの程度の内的整合性をもつかを検討してみた (Table 1)。その結果、本研究の  $\alpha$  係数は全般的にイギリスのそれより低く、特に P と L 尺度において低かった。したがって、これらの尺度は内的整合性が必ずしも十分ではなく、1 次元的とはいえない、ということになる。

4 つの尺度間の相関は Table 2 に見られるように、P と L の間のそれがやや高い。この両尺度間の相関は、Eysenck らにおいても相対的に高くなっているが、それでも  $-0.2$  前後である。これらの尺度は概念的には相互に独立であるべきだと考えられているので、このような相関が見られるのはあまり好ましいことではない。この相関はまた、それぞれの尺度が 1 次元的ではないために生じたとも考えられるので、尺度の内部構造を検討することが必要であろう。

Table 1. Mean, SD, and Cronbach's  $\alpha$  of the Eysenck Personality Questionnaire.

	Male (n=136)			Female (n=159)			Total (n=295)		
	M	SD	$\alpha$	M	SD	$\alpha$	M	SD	$\alpha$
P	4.868	2.820	.570	4.226	3.032	.685	4.552	2.954	.635
E	12.309	3.999	.786	13.774	3.790	.771	13.098	3.956	.785
N	13.588	4.907	.828	13.704	4.382	.780	13.651	4.632	.803
L	6.199	3.208	.687	7.289	3.501	.697	6.786	3.413	.695

Table 2. Intercorrelations between Scales.  
(upper=male, lower=female)

	P	E	N	L
P	—	.056	.234	-.472
E	.042	—	-.066	-.115
N	.274	-.342	—	-.274
L	-.435	-.089	-.289	—

## 〔分析 2〕

以上の分析により、少なくとも P と L 尺度についてはその 1 次元性に疑問が提起された。このため、上記の 295 名のデータを因子分析し、P, E, N (および L) の分類が日本版においても因子的妥当性 (factorial validity) をもつかどうかを検討することにした。その結果 次のようなことが明らかになった。

①主成分分析によると、固有値は第 1 因子から順に、6.858, 5.473, 3.913, 2.519, 2.186, 2.033, 1.957, 1.873, ………となり、急激に落ち込むところが見出せない。したがって、スクリー・テストでは因子数を決定しがたい。しかし、固有値 1 以上という基準に従うと、項目数が 90 もあるので、因子数が多くなりすぎるという問題が生じる。いずれにしても、数量的分析のみからは因子数を決定できない。

②そこで Eysenck の仮説に従って、因子数を仮に 4 とすると、4 因子の寄与率の合計は 20.8% にすぎず、この 4 つの共通因子ではわずかの分散しか説明できない。当然のことながら、4 因子でヴァリマックス回軽しても、どの因子にもほとんど負荷しない項目がかなりでてくる。

③しかし説明率を高めるために、抽出する因子数を多くすると、初めに想定された P, E, N, L の枠組をこえて負荷する項目をもつ因子が増え、因子の解釈が困難になる。また、上記のように因子数をいくりにするか の決定も困難である。したがって、このような分析はあまり現実的ではない。

④このような問題はあがあるが、因子数を 4 ないし 5 とした時には、Eysenck らの P, E, N, L の各特性にほぼ対応する因子を見出すことができた。そこで、ここでは適合性がよりよいと思われる 5 因子解について述べることにする (Table 3 参照)。なお、\*印のついた項目は逆転項目であり、また、文中の P, E, N, L は、EPQ における各項目の分類を示している。

第 1 因子は、(52) 人と一緒にいるのが好きですか (E; - .684), (42\*) 人と一緒にいるときでも黙っていることが多いですか (E; - .637), (32) 友達はたくさんいますか (E; - .597), (86) 生き生きしていると人に思われ

Table 3-1. Factor Pattern of the EPQ

Item	1	2	3	4	5	$h^2$
E 1. 趣味をたくさんもっていますか？	-0.151	0.179	-0.068	0.081	-0.069	0.071
P* 2. ものごとをやり始める前には、いったん考えてみますか？	0.014	0.017	-0.139	-0.064	0.081	0.030
N 3. 気分が変りやすいですか？	-0.112	0.131	0.008	-0.204	0.256	0.137
L* 4. 自分がしたことでもないのに、間違っではめられたことがありますか？	0.076	-0.147	-0.144	0.072	-0.415	0.226
E 5. おしゃべりですか？	-0.536	0.205	-0.052	-0.104	0.060	0.346
P* 6. 借金をしたとしたら、気が重いですか？	-0.082	-0.011	-0.415	-0.069	0.153	0.207
N 7. わけもなく、みじめな気持になることがありますか？	0.118	0.393	0.302	-0.202	-0.011	0.301
L* 8. 人の分までがつがつと食べることがありますか？	0.146	-0.167	0.105	0.214	-0.175	0.137
P* 9. 夜にはきちんと戸締りしますか？	0.172	0.140	-0.141	-0.172	0.066	0.103
E 10. 生き生きしている方ですか？	-0.543	-0.106	-0.130	0.239	0.022	0.381
P* 11. 子供や動物が苦しんでいるのを見たら、気持ちが動揺してしまいますか？	0.189	-0.032	-0.053	0.162	0.238	0.123
N 12. 言わなければよかった、しなければよかったと、よく後悔しますか？	-0.020	0.224	0.270	-0.437	-0.045	0.317
L 13. いったん約束したことは、どんなことがあっても常に守りぬきますか？	0.016	-0.036	0.162	0.530	-0.146	0.330
E 14. パーティに出かけて楽しむことができますか？	-0.550	-0.104	0.053	-0.029	-0.036	0.319
N 15. いらいらしやすいですか？	0.002	0.289	0.136	-0.104	0.342	0.230
L* 16. 本当は自分が悪いのに、人を責めたことがありますか？	-0.028	-0.105	-0.076	0.029	-0.416	0.157
E 17. 未知の人に会うのが好きですか？	-0.305	0.126	-0.157	-0.130	-0.081	0.192
P* 18. 保険はよい制度だと思いますか？	-0.121	0.221	-0.136	-0.085	-0.068	0.094
N 19. すく気分を害してしまいますか？	0.070	0.292	0.164	-0.092	0.369	0.262
L 20. あなたの習慣はよいものばかりですか？	0.035	-0.083	-0.030	0.297	0.015	0.097
E* 21. 人前では出しやばらない方ですか？	-0.292	0.318	-0.242	0.022	0.244	0.305
P 22. 奇妙な副作用があるかもしれない薬を飲んでみようと思いますか？	-0.058	0.116	-0.131	0.024	0.198	0.074
N 23. うんざりした気分によくなりますか？	0.076	0.440	0.178	-0.073	0.310	0.333

Table 3-2. Factor Pattern of the EPQ (Continued)

L *24.	(ペンやボタンのようなものであっても) 人のものを盗ったことがありますか?	-0.001	-0.134	0.112	0.046	-0.524	0.307
E 25.	外出が好きですか?	-0.379	-0.051	-0.069	-0.142	0.061	0.175
P 26.	愛する人によいやがらせをするのが楽しいですか?	-0.072	0.371	-0.126	-0.006	0.121	0.173
N 27.	しばしば罪悪感に悩まされますか?	0.094	0.382	0.162	-0.248	0.130	0.260
L *28.	全然知らないことについて話をすることがありますか?	0.092	-0.205	-0.012	0.071	-0.204	0.097
E *29.	人づきあいより読書の方が好きですか?	-0.545	-0.159	-0.035	-0.087	-0.010	0.331
P 30.	あなたを傷つけようとする敵がいいますか?	0.042	0.530	-0.024	0.057	0.078	0.292
N 31.	自分が神経質だと思いますか?	0.035	0.111	0.631	0.137	0.105	0.442
E 32.	友達はたくさんいますか?	-0.597	-0.222	0.045	-0.023	-0.001	0.409
P 33.	人の気持ちを傷つけるようなことがあるとしても、悪ふざけをするのが好きですか?	-0.133	0.258	-0.233	-0.185	0.313	0.271
N 34.	心配性ですか?	0.106	0.047	0.610	0.063	-0.054	0.393
L 35.	子供のころは、言われたことは文句を言わずにすぐにしましたか?	-0.000	0.161	-0.050	0.146	-0.183	0.083
E 36.	のんきで、おめでたい性格だと思いますか?	-0.176	0.117	-0.356	-0.198	-0.309	0.306
P *37.	身だしなみを整え清潔にしていることは、あなたにとって大切なことですか?	0.268	0.095	-0.351	-0.121	0.025	0.219
N 38.	恐ろしいことが起こるのではないかと心配ですか?	0.108	0.247	0.480	-0.132	0.010	0.321
L *39.	人のものを壊したり失ったことがありますか?	-0.001	-0.180	0.056	0.066	-0.337	0.153
E 40.	新しい友達をつくるときには、自分の方から積極的に働きかけますか?	-0.534	0.115	-0.116	0.164	-0.020	0.339
N 41.	自分で緊張が強いと思いますか?	-0.011	-0.127	0.367	-0.052	0.018	0.154
E *42.	人と一緒にいるときでも、黙っていることが多いですか?	-0.637	-0.040	-0.038	-0.057	0.028	0.413
P 43.	結婚制度は時代遅れであり廃止されるべきだと思いますか?	-0.010	0.122	-0.014	0.055	0.010	0.018
L *44.	少しくらいは自慢することがありますか?	0.235	-0.047	-0.121	-0.114	-0.186	0.120
E 45.	退屈なバーティでも簡単に盛り上げることができますか?	-0.386	0.287	-0.229	0.196	0.047	0.325
P 46.	安全運転する人にいらいますか?	-0.047	0.035	-0.083	-0.057	0.391	0.166
N 47.	健康に不安を感じますか?	0.148	0.383	0.257	-0.025	-0.062	0.239

Table 3-3. Factor pattern of the EPQ (Continued)

L*48.	人の悪口を言ったことがありますか？	0.079	0.047	0.031	0.274	-0.215	0.130
E 49.	友達に冗談を言ったり、面白い話しをするのが好きですか？	-0.484	-0.067	0.017	-0.181	0.069	0.277
P 50.	何を食べても同じような味がしますか？	-0.016	0.059	-0.062	-0.064	0.105	0.023
L*51.	子供のとき、親に生意気なことを言ったことがありますか？	0.073	0.047	-0.034	0.183	-0.165	0.069
E 52.	人と一緒にいるのが好きですか？	-0.684	-0.204	0.050	-0.136	-0.026	0.532
P*53.	自分の仕事にミスのあることが分ったら、悩みますか？	0.009	0.014	-0.435	-0.048	0.097	0.201
N 54.	不眠症ですか？	0.092	0.251	0.051	-0.120	-0.056	0.092
L 55.	食事の前には必ず手を洗いますか？	-0.119	0.020	0.111	0.048	-0.221	0.078
E 56.	人に話しかけたときには、約束の時間より少し早めに着きたいと思 待合わせますか？	-0.295	-0.061	-0.086	0.321	-0.197	0.240
P*57.	いいますか？	-0.063	0.111	-0.347	-0.246	0.151	0.220
N 58.	わけもなく疲れた感じがすることがありますか？	0.077	0.449	0.201	-0.150	0.031	0.271
L*59.	ゲームでズルをしたことがありますか？	-0.005	0.100	-0.017	0.117	-0.505	0.279
E 60.	テキパキとやらねばならないことをするのが好きですか？	-0.167	0.071	0.150	0.364	0.077	0.194
P*61.	あなたのお母さんはよい人ですか（でしたか）？	0.225	0.252	-0.089	-0.039	-0.025	0.124
N 62.	生きているのがつまらないと思うことがよくありますか？	0.245	0.444	0.071	-0.115	0.117	0.289
L*63.	人をだましたことがありますか？	0.115	-0.077	0.000	-0.022	-0.507	0.277
E 64.	時間的にやれそうもない仕事まで引受けてしまうことがよくあ りますか？	-0.036	0.254	0.094	-0.069	0.019	0.080
P 65.	あなたを避けようとする人が何人かいますか？	0.146	0.397	-0.004	0.020	0.118	0.193
N 66.	自分の容姿・容貌に悩んでいますか？	0.039	0.318	0.267	-0.224	-0.066	0.228
P 67.	人は将来の安全のために貯蓄したり保険代を払ったりして、ず いぶん無駄づかいをしている、と思いますか？	-0.030	0.203	-0.064	-0.021	0.119	0.061
N 68.	死んでしまいたいと思ったことがありますか？	0.083	0.430	0.043	-0.077	0.092	0.208
L*69.	絶対に見つからないと確信できたとしたら、税金をごまかそう と思いますか？	-0.021	-0.016	0.120	0.013	-0.537	0.304
E 70.	パーティーをうまく進行できますか？	-0.479	0.287	-0.182	0.267	0.032	0.417
P*71.	人に失礼にあたらないように気をつけていますか？	0.103	0.067	-0.401	-0.168	0.243	0.264
N 72.	恥をかきたくないことがあると、いつまでもよくよくと悩みますか？	0.139	0.159	0.549	-0.245	0.087	0.413

Table 3-4. Factor Pattern of the EPQ (Continued)

L *73.	自分の思いどおりにすると言いつ張ったことがありますか？	0.108	-0.311	0.069	-0.070	-0.180	0.150
P 74.	旅行するときに、出発時間の間際に駅に駆け込むことがよくありますか？	-0.115	0.084	-0.050	-0.380	0.170	0.196
N 75.	神経過敏ですか？	0.004	0.150	0.616	0.079	0.133	0.425
P 76.	あなたが悪いわけではないのに簡単に友情が破壊されてしまうことがありますか？	0.060	0.479	0.139	0.067	0.179	0.289
N 77.	一人ぼっちだと思うことがよくありますか？	0.355	0.450	0.095	-0.027	0.125	0.354
L 78.	人に言ったことは確実に実行していますか？	-0.083	-0.074	0.019	0.603	-0.131	0.394
P 79.	動物をいじめるのを楽しみますか？	0.173	0.072	-0.052	-0.087	0.307	0.139
N 80.	自分の欠点や自分のした仕事の欠点を見つめると、傷ついてしまいますか？	0.043	0.178	0.492	-0.078	-0.056	0.285
L *81.	約束や仕事の時間に遅れたことがありますか？	0.172	-0.055	0.134	0.435	-0.147	0.262
E 82.	騒いだり興奮したりするようだが、自分の周りにたくさん起ってほしいですか？	-0.288	0.033	-0.142	-0.200	0.281	0.223
P 83.	人に恐れられたいですか？	0.223	0.320	-0.223	0.084	0.059	0.212
N 84.	エネルギーが満ちあふれたり、枯れはてたりすることがありますか？	-0.128	0.363	0.008	-0.119	0.141	0.182
L *85.	今日しなければならぬことを明日までのばすことがありますか？	-0.122	0.044	0.211	0.358	-0.099	0.200
E 86.	あなたは生き生きしていると、人に思われていますか？	-0.576	-0.037	-0.101	0.220	0.072	0.397
P 87.	人はあなたによく嘘をつきますか？	0.056	0.248	-0.141	-0.113	0.261	0.165
N 88.	気難しいことがありますか？	0.136	0.329	0.329	0.056	0.337	0.352
L 89.	間違いをしたときには、必ずそれを認めますか？	-0.243	-0.152	0.045	0.125	-0.352	0.224
P *90.	わなに掛った動物をものすごくかわいそうだと思いますか？	0.398	0.052	-0.108	0.100	0.275	0.259
Contribution		5.364	4.469	4.289	2.989	3.838	20.948

ていますか (E ; - .576), (14) パーティーに出かけて楽しむことができますか (E ; - .550), などの項目が負荷しており, 明らかに「外向性-内向性 (E)」因子と解釈できる。

第2因子は, (30) あなたを傷つけようとする敵がいますか (P ; .530), (76) あなたが悪いわけではないのに, 簡単に友情が破壊されてしまうことがありますか (P ; .479), (77) ひとりぼっちだと思うことがよくありますか (N ; .450), (58) わけもなく疲れた感じがすることがありますか (N ; .449), (62) 生きているのがつまらないと思うことがよくありますか (N ; .444), (23) うんざりした気分によくなりますか (N ; .440), (68) 死んでしまいたいと思ったことがありますか (N ; .430), などが負荷しており, 「被害念慮と抑鬱傾向」とでもいうべき特徴が認められる。ここにはPとNに分類される項目が混在しているが, 全体的に見ると, この因子はPに近いものと見なしてよからう。ただし, Eysenck らがPに分類していても, この因子には負荷していない項目がかなりある。このことがP尺度の $\alpha$ 係数の低さにも関係しているのであろう。

第3因子は, (31) 自分が神経質だと思いますか (N ; .631), (75) 神経過敏ですか (N ; .616), (34) 心配性ですか (N ; .610), (72) 恥をかくようなことがあるといつまでもよくよと悩みますか (N ; .549), (80) 自分の欠点や自分のした仕事の欠点を見つけられると傷ついてしまいますか (N ; .492), などの項目が負荷しており, 「神経症的傾向 (N)」をあらわす因子である。

第4因子は, (78) 人に言ったことは確実に実行していますか (L ; .603), (13) いったん約束したことはどんなことがあっても守りぬきますか (L ; .530), (12) 言わなければよかった, しなければよかったと, よく後悔しますか (N ; - .437), (81\*) 約束や仕事の時間に遅れたことがありますか (L ; .435), などが負荷しており, 義務や約束を遵守していると言張る「虚偽尺度 (L)」因子である。

第5因子は, (69\*) 絶対に見つからないと確信できたら, 税金をごまかそ

うと思いますか (L; - .537), (24\*) (ピンやボタンのようなものであっても) 人のものを盗ったことがありますか (L; - .524), (63\*) 人をだましたことがありますか (L; - .507), (59\*) ゲームでズルをしたことがありますか (L; - .505), (16\*) 本当は自分が悪いのに, 人を責めたことがありますか (L; - .416), (4\*) 自分がしたことでもないのに間違っただけでほめられたことがありますか (L; - .415), などの項目が負荷しており, これも符号の方向が逆であるが, 誰もが身に覚えのあるような嘘やごまかしを正直に認めようとし「虚偽尺度 (L)」因子と叫ぶ。これは, 第 4 因子がポジティブな面を強調する嘘であるのに対して, ネガティブな面を否定しようとする嘘だと考えてよからう。このように L 尺度が 2 因子に分化したことについては, 嘘というものに対する考え方や態度が英国と日本とは異なっており, 日本の被験者の方がより分化した認知をもっているということかもしれない。なお, この二義性はこの尺度の内的整合性を損い,  $\alpha$  係数を低下させたのであろう。

このように, P に関しては若干の問題があり, また, L は 2 因子に分化した。が, それにもかかわらず, この EPQ 尺度は Eysenck の主張に近い因子構造をもつことが分った。

しかし, それではこれで因子的妥当性が保証されたのかといえば, そうともいえない。なぜならば, 今までにもふれたように, 概念的には P, E, N, L のいずれかの特性に含まれるべきものでありながら, 上記の 4 ないし 5 因子には殆ど負荷しない項目が多数あるからである。しかも因子負荷量の低い項目に妥当性がないかといえば, そうともいいがたく, 負荷量が低いのは, 単純に, 高く負荷した項目と意味的な違いがあるからだと見ることもできる。このことは, 因子負荷量の高い項目が必ずしも P, E, N, L の全領域をおおっているわけではない, ということを意味している。それは, 5 因子解をとった場合でも寄与率の合計が 23.3% にしかないということからも明らかである。したがって, 負荷量が低いというだけでこれらの項目を捨てざるわけにはいかないのである。

## 〔分析3〕

ここで Eysenck は、P, E, N が「特性」の上位に位置する「類型 (type)」であると考えていたことに思いを致そう。この考え方に従えば、P, E, N はそれ自身がいくつかの下位因子よりなる高次因子と考えるべきものだということになる。とすれば、90 項目全体を込みにして因子分析するのではなく、次のような分析をする方が、彼の理論に適った分析になるのではないかと考えられる。すなわち、①P, E, N と L の 4 尺度をそれぞれ別個に因子分析し、各尺度の構成要素として妥当な因子が出現するかどうかを検討する。そして、それが妥当と認められる場合には、②これらの下位因子が Eysenck の考えたように実際に P, E, N, L にグループ化できるかどうか、いいかえれば、P, E, N, L という高次因子（類型）が出現するかどうかを見る、という分析である。

このように考えて、まず、4 つの尺度を個別に因子分析してみた。

その結果、Table 4 に示すように、P 尺度は 4 因子に分化した（\*印は逆転項目、以下同様）。第 1 因子には、(57\*) 待合わせるときには、約束の時間より少し早目に着きたいと思いますか（.782）、(33) 人の気持を傷つけるようなことがあるとしても、悪ふざけをするのが好きですか（.571）、(6\*) 借金をしたとしたら、気が重いですか（.570）、(53\*) 自分の仕事にミスのあることが分ったら、悩みますか（.445）、などの項目がかかわっており、節度やけじめの意識に欠ける「義務観念の欠如」因子とみなしうる。第 2 因子は、(30) あなたを傷つけようとする 敵がいますか（-.739）、(65) あなたを避けようとする人が何人かいますか（-.657）、(76) あなたが悪いわけではないのに簡単に友情が破壊されてしまうことがありますか（-.629）、などが負荷しており、符号の方向を逆転させると「被害念慮」因子であることが分る。第 3 因子は、(90\*) わなに掛った動物をものすごくかわいそうだと思いますか（.760）、(79) 動物をいじめて楽しむことがありますか（.537）、(61\*) あなたのお母さんはよい人ですか（でしたか）（.406）、などが負荷している。この母親についての質問はこの文脈にはなじまない感じもするが、これによ

Table 4. Factor Pattern of the P Scale

Item	1	2	3	4	$h^2$
*2. ものごとをやり始める前には、いったん考えてみますか？	-0.011	-0.051	0.101	0.286	0.094
*6. 借金をしたら、気が重いですか？	0.570	0.012	-0.196	0.139	0.383
*9. 夜にはきちんと戸締りしますか？	0.099	-0.032	0.278	0.126	0.104
*11. 子供や動物が苦しんでいるのを見たら、気持ちが動揺してしまいますか？	-0.055	0.093	0.380	0.129	0.173
*18. 保険はよい制度だと思えますか？	-0.053	-0.117	-0.161	0.520	0.312
22. 保険はよい制度だと思えない薬を飲んでみようと思えますか？	-0.098	0.138	0.199	0.648	0.488
26. 愛する人にいやがらせをするのが楽しいですか？	0.016	-0.348	-0.022	0.423	0.301
30. あなたを傷つけようとする敵がいいますか？	0.035	-0.739	-0.049	0.003	0.550
33. 人の気持を傷つけるようなことがあるとしても、悪ふざけをするのが好きですか？	0.571	-0.171	0.054	0.120	0.372
*37. 身だしなみを整え清潔にしていることは、あなたにとって大事なことです	0.171	0.040	0.244	0.354	0.216
43. 結婚制度は時代遅れであり廃止されるべきだと思いますか？	-0.049	-0.054	0.198	-0.013	0.045
46. 安全運転する人にいららうすることがありますか？	0.329	-0.029	0.230	0.243	0.221
50. 何を食べても同じような味がしますか？	0.117	-0.056	-0.166	0.294	0.131
*53. 自分の仕事にミスのあることが分つたら、悩みますか？	0.445	0.037	0.156	0.048	0.226
*57. 待合わせのときには、約束の時間より少し早めに着きたいと思えますか？	0.782	0.003	-0.009	-0.094	0.621
*61. あなたの祖母さんはよい人ですか（でしたか）？	0.108	-0.275	0.406	-0.134	0.270
65. あなたを助けようとする人が何人かいますか？	-0.105	-0.657	0.094	0.071	0.456
67. 人は将来の安全のために貯蓄したり保険代を払ったりして、ずいぶん無駄づかいをしていると思えますか？	0.208	-0.346	-0.026	0.006	0.163
*71. 人に失礼にあたらぬように気をつけていますか？	0.234	-0.058	0.183	0.552	0.397
74. 旅行するとき、出発時間の間際に駅に駆け込むことがよくありますか？	0.192	0.032	-0.033	0.474	0.263
76. あなたが悪いわけではないのに簡単に友情が破壊されてしまうことがありますか？	-0.055	-0.629	-0.015	0.116	0.412
79. 動物をいじめるのを楽しむことがありますか？	0.103	0.001	0.537	0.052	0.301
83. 人に恐がられたくないですか？	0.093	-0.382	0.367	-0.128	0.305
87. 人はあなたによく嘘をつきますか？	0.310	-0.338	0.064	0.115	0.227
*90. わなに掛った動物をものすごくかわいそうだと思えますか？	0.021	0.100	0.760	0.010	0.588
Contribution	1.918	2.048	1.759	1.897	7.621

って、ヒューマニスティックな感情交流の欠如を捉えているのだと解すると、この因子は「残虐性」あるいは「非共感性」因子であると解釈してよさそうである。第4因子は、(22) 奇妙な副作用があるかもしれない薬を飲んでみようと思いますか(.648), (71\*) 人に失礼にあたらずに気をつけていますか(.552), (18\*) 保険はよい制度だと思いますか(.520), (74) 旅行するとき出発時間の間に駅に駆け込むことがよくありますか(.474), などに負荷しており、「日常的秩序の破壊」因子といえる。これらの4因子はかなり多様な特徴をもっており、Pという1つのカテゴリーに包括しようとは考えにくい、あえていえば、どの因子も「通俗的良識からの離脱」を表していると思われる。とすれば、Eysenck の toughness の考え方に一致するのかもしれない。

次に、E尺度は3因子に分化した(Table 5)。第1因子は、(52)人と一緒にいるのが好きですか(.817), (32) 友達はたくさんいますか(.729), (14) パーティに出かけて楽しむことができますか(.636), (29\*) 人づきあいより読書の方が好きですか(.622), などの項目が負荷しており、「社交性」因子と解釈できる。第2因子は、(45) 退屈なパーティでも簡単に盛り上げることができますか(.651), (70) パーティをうまく進行できますか(.640), (5) おしゃべりですか(.511), (21\*) 人前では出しゃばらない方ですか(.476), などが負荷しており、「指導性」と解することができます。第3因子は、(60) テキパキとやらねばならないことをするのが好きですか(－.604), (86) あなたは生き生きしていると人に思われていますか(－.550), (56) 人に話しかけられたらすぐに返事できますか(－.491), などが負荷しており、符号の方向を逆転させれば「活動性」因子と考えられる。いずれの因子も広い意味での外向性を表すものであり、妥当な結果といえよう。

また、N尺度は4因子が抽出できた(Table 6)。第1因子は、(68) 死んでしまいたいと思ったことがありますか(.789), (62) 生きているのがつまらないと思うことがよくありますか(.757), (66) 自分の容姿・容貌に悩んでいますか(.425), (58) わけもなく疲れた感じがすることがありますか

Table 5. Factor Pattern of the E Scale

Item	1	2	3	$h^2$
1. 趣味をたくさんもっていますか？	0.048	0.330	0.033	0.112
5. おしやべりですか？	0.220	0.511	-0.198	0.348
10. 生き生きしている方ですか？	0.220	0.315	-0.513	0.411
14. パーティに出かけて楽しむことができますか？	0.636	0.134	-0.111	0.435
17. 未知の人に会うのが好きですか？	0.121	0.385	-0.037	0.164
*21. 人前では出しやばらない方ですか？	0.018	0.476	-0.165	0.254
25. 外出が好きですか？	0.401	0.281	0.009	0.240
*29. 人づきあいより読書の方が好きですか？	0.622	0.007	-0.164	0.414
32. 友達がたくさんいますか？	0.729	-0.020	-0.203	0.573
36. のんきで、おめでたい性格だと思いますか？	0.076	0.463	0.329	0.329
40. 新しい友達をつくるときには、自分の方から積極的に働きかけますか？	0.287	0.285	-0.458	0.374
*42. 人と一緒にいるときでも、黙っていることが多いですか？	0.456	0.269	-0.412	0.450
45. 退屈なパーティでも簡単に盛り上げることがができますか？	0.073	0.651	-0.066	0.434
49. 友達に冗談を言ったり、面白い話をするのが好きですか？	0.551	0.138	0.002	0.322
52. 人と一緒にいるのが好きですか？	0.817	-0.036	-0.129	0.685
56. 人に話しかけられたら、たいがい、すぐに返事できますか？	0.169	0.010	-0.491	0.270
60. テキバキとやらねばならないことをするのが好きですか？	-0.126	-0.082	-0.604	0.388
64. 時間的にやれそうにない仕事まで引受けてしまうことがよくありますか？	-0.026	0.043	-0.004	0.003
70. パーティをうまく進行できますか？	0.110	0.640	-0.269	0.494
82. 騒いだり興奮したりするようなことが、自分の周りにたくさん起ってほしいですか？	0.368	0.321	0.253	0.302
86. あなたは生き生きしている人と、人に思われていますか？	0.266	0.378	-0.550	0.515
Contribution	3.134	2.418	1.966	7.518

Table 6. Factor Pattern of the N Scale

Item	1	2	3	4	$h^2$
3. 気分が変りやすいですか？	-0.005	0.042	0.595	0.065	0.360
7. わけもなく、みじめな気持ちになることがありますか？	-0.025	-0.103	0.213	-0.659	0.491
12. 言わなければよかった、しなければよかったと、よく後悔しますか？	0.027	-0.146	-0.070	-0.567	0.349
15. いらいらしやすいですか？	-0.023	-0.111	0.674	-0.163	0.493
19. すぐ気分を害してしまいますか？	0.218	-0.124	0.692	-0.053	0.545
23. うんざりした気分によくなりますか？	0.182	-0.014	0.589	-0.353	0.505
27. うしばしば罪悪感に悩まされますか？	0.206	0.035	0.139	-0.556	0.372
31. 自分が神経質だと思えますか？	-0.018	-0.738	0.185	-0.071	0.585
34. 心配性ですか？	0.022	-0.674	-0.027	-0.137	0.474
38. 恐ろしいことが起こるのではないかと心配ですか？	0.126	-0.353	0.131	-0.438	0.349
41. 自分で緊張が強いと思いますか？	0.003	-0.482	0.022	0.110	0.245
47. 健康に不安を感じますか？	0.074	-0.219	-0.011	-0.527	0.332
54. 不眠症ですか？	0.135	0.023	0.050	-0.268	0.093
58. わけもなく疲れた感じがすることがありますか？	0.406	-0.051	0.173	-0.394	0.353
62. 生きているのがつまらないと思うことがありますか？	0.757	-0.033	0.040	-0.128	0.591
66. 自分の容姿・容貌に悩んでいますか？	0.425	-0.160	-0.036	-0.251	0.271
68. 死んでしまいたいと思ったことがありますか？	0.789	-0.088	0.157	0.156	0.679
72. 恥をかくようなことがあると、いつまでもよくよくと悩みますか？	0.092	-0.484	0.049	-0.425	0.426
75. 神経過敏ですか？	-0.040	-0.698	0.211	-0.148	0.555
77. 一人ぼっちだと思うことがよくありますか？	0.391	0.020	0.191	-0.339	0.304
80. 自分の欠点や自分のした仕事の欠点を見つかけられると、傷ついてしまいますか？	0.280	-0.502	-0.200	-0.209	0.414
84. エネルギーが満ちあふれたり、枯れはてたりすることがありますか？	0.334	0.101	0.083	-0.238	0.185
88. 気難しいことがありますか？	0.251	-0.295	0.423	-0.151	0.352
Contribution	2.122	2.576	2.126	2.501	9.324

(.406), などの項目が負荷しており, 「自己不全感に基づく抑鬱性」の因子といえよう。第2因子は, (31) 自分が神経質だと思いますか (－.738), (75) 神経過敏ですか (－.698), (34) 心配性ですか (－.674), (80) 自分の欠点や自分のした仕事の欠点を見つげられると, 傷ついてしまいますか (－.502), などが負荷しており, 「神経過敏」因子(符号の方向は逆)と理解できる。第3因子は, (19) すぐ気分を害してしまいますか (.692), (15) いらいらしやすいですか (.674), (3) 気分が变りやすいですか (.595), (23) うんざりした気分によくなりますか (.589), などが負荷しており, 明らかに「易怒性」の因子である。最後の因子は, (7) わけもなくみじめな気持ちになることがありますか (－.659), (12) 言わなければよかった, しなければよかったと, よく後悔しますか (－.567), (27) しばしば罪悪感に悩まされますか (－.556), (47) 健康に不安を感じますか (－.527), などの項目が負荷しており, 「自責」の因子(符号の方向は逆)と見なしうる。いずれの因子も疑問の余地なく, 神経症的傾向(情動性)を表わすものである。

最後にL尺度。これは正直に反応しているかどうかを見るための尺度であるから, 基本的な人格特性である P, E, N と同列に論じることとはできない。しかしこれも 21 もの項目があり, しかも 1 次元的好い悪いは一見して分る。したがって, これをも因子分析してみることにした。その結果 (Table 7 参照), 第1因子は, (89) 間違いをしたときには必ずそれを認めますか (.545), (73\*) 自分の思いどおりにするといいはったことがありますか (.540), (39\*) 人のものを壊したり失ったりしたことがありますか (.511), (16\*) 本当は自分が悪いのに, 人を責めたことがありますか (.473), などが負荷している。このように, 自分は間違いを犯していないといいはり, 間違いをしたときには必ずそれを認めると断言するのは, これが自己防衛的な「過失否認」因子だということであろう。第2因子は, (78) 人に言ったことは確実に実行していますか (.757), (13) いったん約束したことはどんなことがあっても常に守りぬきますか (.684), (81\*) 約束や仕事の時間に遅れたことがありますか (.588), (85\*) 今日しなければならぬことを明日までの

Table 7. Factor Pattern of the L Scale

Item	1	2	3	4	5	$h^2$
*4. 自分がしたことででもないのに、間違っではめられたことがありますか？	0.284	-0.013	0.144	-0.278	0.326	0.285
*8. 人の分までがつがつと食べたことがありますか？	0.270	0.126	0.042	-0.036	0.548	0.392
13. いったん約束したことは、どんなことがあっても常に守りぬきますか？	0.255	0.684	0.108	0.131	0.011	0.561
*16. 本当は自分が悪いのに、人を責めたことがありますか？	0.473	0.151	-0.149	-0.218	0.077	0.323
20. あなたの習慣はよいものばかりですか？	-0.199	0.331	-0.118	-0.115	0.253	0.241
*24. (ピンやボタンのようなものであっても) 人のものを盗ったことがありますか？	0.373	0.010	0.083	-0.450	0.133	0.366
*28. 全然知らないことについて話をすることがありますか？	-0.094	0.108	0.121	-0.108	0.636	0.452
35. 子供のころは、言われたことは文句を言わずにすぐにしたか？	0.031	0.105	0.766	-0.050	-0.169	0.630
*39. 人のものを壊したり失ったりしたことがありますか？	0.511	0.064	0.028	-0.157	0.252	0.355
*44. 少しくらはは自慢することがありますか？	0.209	-0.124	-0.258	0.011	0.530	0.407
*48. 人の悪口を言ったことがありますか？	-0.181	0.299	0.006	-0.394	0.214	0.323
*51. 子供のとき、親に生意気なことを言ったことがありますか？	-0.027	0.001	0.725	-0.072	0.242	0.591
55. 食事の前には必ず手を洗いますか？	0.454	-0.030	0.009	-0.051	-0.000	0.209
*59. ゲームでズルをしたことがありますか？	0.149	0.146	0.072	-0.646	-0.056	0.469
*63. 人をだましたことがありますか？	0.149	0.011	-0.205	-0.699	0.133	0.571
*69. 絶対に見つからないと確信できたとしたら、税金をごまかそうと思いますか？	0.049	0.067	0.327	-0.568	0.009	0.437
*73. 自分の思いどおりにすると言い合ったことがありますか？	0.540	-0.058	0.131	0.183	0.278	0.423
78. 人に言ったことは確実に実行していますか？	0.098	0.757	-0.034	-0.034	0.089	0.593
*81. 約束や仕事の時間に遅れたことがありますか？	0.104	0.588	0.112	-0.102	0.033	0.381
*85. 今日しなければならぬことを明日までのばすことがありますか？	-0.090	0.499	0.012	-0.190	-0.058	0.297
89. 間違いをしたときには、必ずそれを認めますか？	0.545	0.235	-0.087	-0.169	-0.198	0.427
Contribution	1.839	2.000	1.465	1.900	1.528	8.732

ばすことがありますか (.499), などが負荷しており, 「約束の遵守」因子と理解できる。第3因子は, (35) 子供のころは, いわれたことは文句をいわずにすぐにしましたか (.766), (51\*) 子供のとき親に生意気なことを言ったことがありますか (.725), の2項目だけに負荷しており, 「子供時代の従順性」因子といえる。第4因子は, (63\*) 人をだましたことがありますか (-.699), (59\*) ゲームでズルをしたことがありますか (-.646), (69\*) 絶対に見つからないと確信できたとしたら, 税金をごまかそうと思いますか (-.568), (24\*) 人のものを盗ったことがありますか (-.450), などが負荷しており, 「違反行動の否認」の因子(符合の方向は逆)といえよう。第5因子は, (28\*) 全然知らないことについて話しをすることができますか (.636), (8\*) 人の分までがつがつと食べたことがありますか (.548), (44\*) 少しくらは自慢することができますか (.530), などが負荷しており, いずれも逆転項目であるから, 「謙虚性」因子と考えてよかろう。その虚偽性に関しては, ネガティヴな面を明確に否定しようとするものから, ポジティヴな印象を強調するものまで, また, 明からさまなものから控え目なものまで多様な因子が出現したが, 広義には虚偽傾向を測定するものといっておく。

このように解釈すると, これらの下位因子は一応は P, E, N, L を構成する因子であると考えられなくはない。

そこで,  $4(P)+3(E)+4(N)+5(L)=16$  の下位因子得点——各因子に高い負荷をしている項目を, それぞれの因子(すなわち下位尺度)を構成する項目であると考えて, それらの項目の素点の合計を因子ごとに算出して因子得点とした——に基づいて, あらためて因子分析を行ない, 高次因子を求めてみた。その結果, ①因子数は, スクリーン・テストでも固有値1以上の基準でも, 4ではなく5となる。②4因子でも5因子でヴァリマックス回転した場合でも, Eysenck が想定した通りには因子はまとまらない(因子パターンは最初の想定とは異なる)。③しかし, グルーピングは異なっても, 各因子はやはり P, E, N, L に近い内容のものだと解釈できなくもない (Table 8 参照)。

Table 8. Higher Order Factor Analysis of the EPQ

Item (factor)	1	2	3	4	5	h <sup>2</sup>
(P1) Lack of Sense of Duty	-.061	.672	.024	.034	-.248	.519
(P2) Idea of Persecution	.646	.230	-.032	.295	-.041	.561
(P3) Cruelty	.018	.105	-.507	.104	-.478	.509
(P4) Breaking Ordinary Framework	.259	.598	.117	-.206	-.030	.481
(E1) Sociability	-.172	.064	.756	-.189	.001	.641
(E2) Leadership	.063	.462	.594	.139	-.122	.604
(E3) Activity	-.177	-.029	.783	.212	-.047	.689
(N1) Depressiveness	.657	.044	-.147	-.033	-.106	.467
(N2) Vulnerability	.537	-.619	-.031	-.125	-.063	.691
(N3) Irritability	.682	.106	-.023	-.091	-.208	.528
(N4) Self-blame	.720	-.186	-.105	-.077	-.080	.576
(L1) Denial of Mistakes	-.172	-.100	.138	-.020	.717	.573
(L2) Punctuality	-.130	-.470	.126	.441	.152	.471
(L3) Obedience in Childhood	.010	-.029	-.013	.819	.054	.675
(L4) Denial of Transgression	-.137	-.233	-.001	.134	.612	.465
(L5) Modesty	-.100	.037	-.292	.072	.644	.516
Contribution	2.331	1.810	1.965	1.162	1.703	8.971

具体的に見てゆこう。第1高次因子には、(N4)自責(.720)、(N3)易怒性(.682)、(N1)抑鬱性(.657)、(P2)被害念慮(.646)、(N2)神経過敏(.537)、の5項目(因子)が負荷しており、精神病的傾向の因子(P2)が1つ混じっているが、まずは問題なく情緒不安定な神経症的傾向(N)をあらわす高次因子といえよう。

第2高次因子は、(P1)義務観念の欠如(.672)、(N2)神経過敏(-.619)、(P4)日常的秩序の破壊(.598)、(L2)約束の遵守(-.470)、(E2)指導性(.462)、が比較的高く負荷している。これは、義務違反を平然とし、神経質ではなく、非日常的な逸脱したことを好み、規則や約束を守ろうとせず、しかも指導的だということである。ここにはE、N、Lなどの因子も含まれてはいるが、あえていえば *toughness* の高次因子ということになろうか。ただし、ここまで掛離れてくると、Eysenck の精神病的傾向とアイデンティカ

ルだとはいいがたい。

第3 高次因子は、(E3) 活動性 (.783), (E1) 社交性 (.756), (E2) 指導性 (.594), (P3) 残虐性 (−.507), が負荷しており, 明らかに外向性の因子である。残虐性がマイナスの負荷をしているのは, これが共感性や愛想のよさなどに関係しているからであろう。

第4 高次因子は、(L3) 子供時代の従順性 (.819), (L2) 約束遵守 (.441) の2つの虚偽尺度因子のみが負荷している。規則を守り, 従順で, 自己統制のよいことを印象づけようとする虚偽性の因子といえよう。

第5 高次因子は、(L1) 過失の否認 (.717), (L5) 謙虚性 (.644), (L4) 違反行動の否認 (.612), (P3) 残虐性 (−.478), が負荷している。この高次因子は残虐性をも含めてネガティブなものは全て否認して謙虚さを強調しようとする傾向をあらわしており, まさに虚偽性因子と解釈できる。

このように高次因子の因子パターンは, 精神病的傾向を除けば, Eysenck の人格理論にかなりよく適合している, といえそうである。

#### IV. 結論と要約

我が国には多くの Eysenkian がいる。が, それにもかかわらず, Eysenck が考案した性格検査は, E (外向性—内向性) と N (神経症的傾向) のみを測定する MPI 日本版が標準化されているだけであり, P (精神病的傾向) をも測定できる PEN や EPQ は, まだ日本版が作成されていない。そこで私たちは, 彼の EPQ を翻訳し, その日本版の作成を試みることにした。

まず, この尺度を翻訳し, これを 295 名の男女高校生に実施した。このデータを下位尺度ごとに検討してみたところ, P と L (虚偽尺度) の内的整合性が Eysenck らのそれに比べて若干低いことが分った。また, P と L の間には,  $-0.4$  代の相関があり, これらの尺度に関しては独立性に問題があることも分った。因子分析の結果は, 大雑把には彼の P, E, N, L に相当すると見なしうる因子が得られたが, これらの共通因子で説明できるのは全分散

の23%にすぎなかった。

EとN尺度は表面的にも因子的にもほぼ妥当と思われ、L尺度も大雑把にはポジティブな面を強調する「うそ」とネガティブな面を強調する「うそ」とに分れたが、まずは妥当と見なされた。

しかし、P尺度に関してはかなりの問題が認められた。すなわち、①Eysenck はPを toughness に相当するものと述べているが、この概念が必ずしも明瞭ではなく、P項目には残虐性や破壊性を内容とする項目が多い。このために、EPQを全体として見たときには、これがあたかもPを代表するかのような様相を呈してしまう。このことはEPQ全体の因子分析でも確かめられている。②P尺度のみを因子分析したときに見出された「義務観念の欠如」「被害念慮」「残虐性」「日常的秩序の破壊」の4因子は、Pの構成要素として理解できなくはない。が、③これらが全体として1つのP尺度を構成するほど密接な関係にあるとは考えにくいし、高次因子を求めたときにも、これらの因子はまとまりをもたなかった。このため、Pという次元がそもそも成立しうるのかという疑問も生じてくる。

もちろん、以上のような問題は、翻訳にともなう文意の微妙な変化や、文化によるパーソナリティの差異などによる可能性もじゅうぶん考えられる。この点については、さらにデータを集めて検討してゆかねばなるまい。また、今回の研究は全くの試行段階であったために、概念的な検討が中心となったが、今後は、他のデータとの関連を見てゆくことも必要となろう。

## 文 献

- Claridge, G. (1987). Psychoticism and arousal. In J. Strelau & H.J. Eysenck (eds.) *Personality dimensions and arousal*. NY: Plenum.
- Eysenck, H.J. (1970). *The structure of personality*. Methuen.
- Eysenck, H.J. & Eysenck, M.W. (1985). *Personality and individual differences: A natural science approach*. NY: Plenum.

Eysenck, H. J. & Eysenck, S. B. G. (1975). *Manual of the Eysenck Personality Questionnaire (Junior and Adult)*. Hodder and Stanton.

Hayashi, S. & Kurachi, S. (1988). Studies on personality structure (II)  
—Factor analysis of Junior PEN Inventory—. Paper presented at the 24th  
International Congress of Psychology.